

授業科目	聴覚障害 I (概論)				
担当者	矢吹裕栄・福田信二郎				(オムニバス)
専攻(科)	言語聴覚専攻科	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 授業目的・内容

聴覚障害学の基礎となる聴覚の器官の解剖と機能を理解し、難聴と聴覚検査との関係を学習する。加えて、聴覚検査の基礎を学び、検査結果と聴覚障害との関連について学ぶ。臨床でも最低限必要とされる基礎知識の習得を目指す。

■ 到達目標

聴こえの仕組みの基礎知識を習得する。
難聴のタイプ分類と聴覚検査法の基礎を習得し、検査結果から難聴のタイプを推定できるようになる。
聴覚障害への対応や各種補聴機器の仕組みを理解する。

■ 授業計画

- 第1回 基礎用語の確認 音とは何か、「きこえる」ということ。聴覚障害を学ぶにあたって最低限必要な知識を確認する (矢吹)
- 第2回 聴覚器の解剖 外耳・中耳の解剖と機能を確認する (矢吹)
- 第3回 聴覚器の解剖 内耳の解剖・機能を確認する (矢吹)
- 第4回 前半のまとめと復習 (矢吹)
- 第5回 聴覚障害で見られる症状と問題点を考え確認する (矢吹)
- 第6回 難聴のタイプ分類を確認する (矢吹)
- 第7回 聴覚検査法1：主な聴覚検査の概要を確認する (純音聴力検査の原理) (矢吹)
- 第8回 聴覚検査法2：主な聴覚検査の概要を確認する (純音聴力検査の結果の読み方) (矢吹)
- 第9回 聴覚障害の実態 障害の疑似体験 (福田)
- 第10回 聴覚障害を来す疾患 (福田)
- 第11回 聴覚障害への対応 (福田)
- 第12回 補聴器の仕組みと適応 (福田)
- 第13回 人工内耳の仕組みと適応 (福田)
- 第14回 聴力検査の復習と結果のみかた (福田)
- 第15回 まとめ (福田)

■ 評価方法

筆記試験100%

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

学習内容が多くなるため、日々の復習が欠かせません。基本的事項の理解の積み重ねが重要な分野であり、基礎が疎かになるとその先の理解が難しくなります。その日のうちにその日の学習内容を復習する事が望ましいです。

■ 教科書

書 名：標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版
著者名：城間将江 鈴木恵子 小淵千絵
出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：聴力検査の実際（改訂4版）

著者名：日本聴覚医学会 編

出版社：南山堂

■ 留意事項

1年前期では講義に不慣れな事が多く、学習内容が多く欠席をするとその遅れを取り返すのが大変なことが多いです。欠席や遅刻に注意してください。基本的に学習内容は講義で使用するスライドとその配布資料に記載されています。講義はスライド中心で進行します。必要に応じてビデオ視聴も行います。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。